第 58 回 神奈川会 イベント報告

横浜山手西洋館めぐり＆山手ローズテラスでランチ

JARP 公益社団法人 日本産業退職者協会 神奈川会

好天の４月３日、最高気温は２５度の予報にも拘らず肌寒い朝を迎えて何を着ていくべきか迷った人も多かったと思いますが、４７名全員時刻前に JR 石川町駅に集合した。

我々の若い頃は西洋への憧れもあり、その象徴が西洋館であり、庭園（芝生）であり、広いリビングに豪華なランチであったものです。今回のイベントはそのノスタルジアを彷彿して頂くと共に横浜の歴史に思いを馳せる企画です。横浜の歴史といっても開港から高々１６０年程度、「横に伸びた砂浜」に由来する横浜村は当時百世帯程度で、六千人を擁していた神奈川宿に比べると文字通りの寒村でした。現在の「神奈川県横浜市神奈川区」の地名がどのような歴史的産物なのか興味あるところですが、全国第二の都市に成長したのです。

ブラフ 18 番館　＊　外交官の家　イタリア山庭園にて行程の説明を聞く

石川町駅の脇から急峻な大丸谷坂を登ること１０分、山手イタリア山庭園に到着。この中庭で長澤神奈川会会長の挨拶、木村リーダーより行程の説明、そして西洋館でのガイド案内の都合で二班（赤リボン派と青リボン派）に分け、その色を纏ったサブリーダーが紹介された。

イタリア山庭園はシンメトリーに花壇と水路が整備され、また眼下にはベイブリッジ、山手の断崖、マリンタワー、ランドマークタワーが遠望されたが、往時には海と田畑が広がっていたようである。赤派と青派が交互にブラフ１８番館と外交官の家の説明を受けた。

ブラフ１８番館はカトリック山手教会（山手１７番）に隣接していた司祭館を移設したもので当時の外国人の暮らしが偲ばれた。外交官の家は明治４３年建立の明治政府の外交官内田定槌邸（渋谷区南平台にあった）を移設したもの、山手の建造物は関東大震災（大正１２年）で壊滅したこともあり意義ある建築物である。

メタセコイヤに囲まれた玄関を出て、山手本通りを歩く、かっての大規模な西洋館の名残を留める大邸宅が多い、ほどなく右手にカトリック山手教会、フェリス女学院があり、左手には元町に下る汐汲坂、代官阪があり遠方に高層ビル群を垣間見ることができた。至るところに見ることができる桜はピークを過ぎていて残念だが、その風情がこの街の令名を高めているようでもある。

「ベーリック・ホール」は、イギリス人貿易商 B.R.ベリック氏の邸宅･･･説明うける

ベーリックホールでは全員で正面に向かった芝生で説明を受けた。昭和５年の建築で英国貿易商の邸宅で著名な建築家（J・H・モーガン）によるスパニッシュ様式、そのため庭にはシュロやヤシの木が植栽されていた、だがそれより見事だったのが大島桜の大木で花もつけた葉桜は大層美しいものであった。リビング、広間、寝室等は何れも広く、また横浜家具が部屋に溶け込み伝統を感じさせていた。集合場所のエリスマン邸の前庭は「えの木てい」の榎の大木が大きく枝を張り、元町公園の木木、山手２３４番館等の西洋館は風景スポットとして大勢がスケッチをされていた。

そこから右手に山手聖公会（英国国教会）、山手資料館を左手に元町公園、外国人墓地を見ながら港の見える丘公園に到着。歩きが多くお疲れの方も多かったがランチの声で元気も回復されたようである。

KKR ポートヒル横浜の中にあるが、誰でもが入れる「山手ローズテラス」は公園の脇にあるレストランである。４階の会場を貸切にして、フレンチ「ラグジュアリコース」（店のランチコース名）を頂くことになった。４階からは一方に横浜港、山下ふ頭、ベイブリッジを、反対側には港の見える丘公園一帯を見渡すことのできる素晴らしい一室であった。ランチコースもその名に相応しい豪華なフレンチであり、お料理には厳しい女性陣からもそれなりの合格点を頂けたものと思います。食後にレストランの前で記念写真。

ローズガーデンを横切る、シンボルのソメイヨシノは花を落としていたが、チューリップやパンジーなどの花が色とりどりに花壇を埋め見る人の眼を楽しめていた、また公園がよく管理され、行き届いた整備がなされていた。そこからまた二班に分かれ横浜市イギリス館と山手１１１番館にて説明を受けた。前者は英国総領事公邸としてジョージ六世時代の１９３７年に建てられたとの銘板がある。後者はＪ・Ｈ・モーガンの設計の両替商の邸宅でやはりスパニッシュ様式である。

午後３時頃イギリス館前で解散、解散場所と時間との関係で恒例の二次会は中止させて頂いた。総括すると天候に恵まれたこと、また行程も楽しめ、ランチも良かったといえる。

＊ 最後にワンコイン募金（東日本大震災の義援金）にご協力頂き厚く御礼申し上げます（総額３，７４３円）。

文 章　中井 順一
写 真　榎原 勝　　富山 友次
編 集　富山 友次